

教育の情報化の推進を支援する

学校情報化認定

新学校情報化診断システム (2018年4月より稼働)

<http://check-ict.jaet.jp/>



日本教育工学協会 (JAET)

Japan Association for Educational Technology

<http://www.jaet.jp/>

後援 文部科学省



学校情報化認定とは

日本教育工学協会(JAET)は、教育の情報化の推進を支援するために、学校情報化診断システムを活用して、情報化の状況を自己評価し、総合的に情報化を進めた学校(小学校、中学校、高等学校)を認定する学校情報化認定に2014年度から取り組んでいます。

「情報化の推進体制」を整え、「教科指導におけるICT活用」「情報教育」「校務の情報化」に積極的に取り組んでいる学校を称え、**学校情報化優良校**として認定します。そして、学校情報化優良校が一定以上の割合になった地域を**学校情報化先進地域**として認定します。また、特に優れた取り組みを行っている学校を**学校情報化先進校**として表彰します。

学校情報化診断システムに登録すると、全国の学校との比較や、既に優良校の認定を受けた学校の申請内容(エビデンス)を参照することが可能となります。また、優良校の審査は、JAETの役員で構成される学校情報化認定委員会が定めた基準に従って行いますので、客観的な評価を受ける貴重な機会となります。

学校情報化優良校



ロゴイメージ



教育の情報化に総合的に取り組み、情報化によって教育の質の向上を実現している学校を**学校情報化優良校**として認定します。

認定基準

- ◆各項目のレベルが1以上(0の項目がないこと)
- ◆学校情報化チェックリストのすべての項目の平均が2以上であること

上記の基準を満たした上で、指定されたエビデンス(自己評価の裏付けとなる各種情報・資料)をすべて入力した学校を対象に、学校情報化認定委員会が審査して認定します。

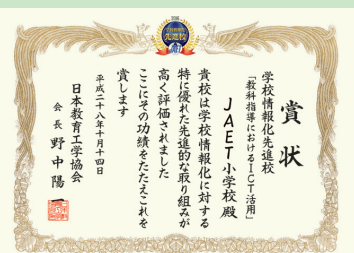
※学校情報化優良校の認定の有効期間は、認定を受けた年度を含め3年間です。3年経過後は再認定を受ける必要があります。

学校情報化先進校

(毎年4月頃、エントリー開始の予定)



ロゴイメージ



学校情報化優良校として認定された学校のうち、「教科指導におけるICT活用」「情報教育」「校務の情報化」のいずれかのカテゴリにおいて、当該年度に、他に比べて特に優れた先進的な取り組みを行っていると思われる学校を**学校情報化先進校**として表彰するものです。

応募基準

- ◆学校情報化優良校として認定を受けていること
- ◆学校情報化チェックリストのすべての項目のレベルが2以上、かつ応募するカテゴリの5項目の内3項目以上がレベル3であること

上記の基準を満たした応募校の中から、書類審査及び訪問調査により、学校情報化認定委員会が毎年、数校を選定します。

※毎年1回開催される全日本教育工学研究協議会全国大会において表彰します。

学校情報化先進地域

(※2018年8月より受付開始の予定)



ロゴイメージ



学校情報化優良校として認定された学校が、自治体で一定の割合に達した地域を**学校情報化先進地域**として認定するものです。

審査基準

- ◆自治体において、学校情報化優良校の割合が80%以上であること(校種別に申請可能)

上記の基準を満たし、応募に必要な書類を提出した教育委員会の中から、書類審査及び訪問調査により、学校情報化認定委員会が認定します。

※地域内の優良校が再認定を受けず、基準を満たさなくなった場合には、先進地域の認定を取り消します。

学校情報化認定の流れ

学校情報化優良校

学校情報化診断システムへのユーザー登録

<http://check-ict.jaet.jp/>

学校情報化診断システム(チェックリスト)による自己評価

学校情報化優良校認定基準のチェック

- 各項目のレベルが1以上(0の項目がないこと)
- 全項目の平均が2以上

エビデンスの入力、認定申請

学校情報化認定委員会の審査、認定

認定に必要なエビデンス(例)

- 学校情報
 - ・普通教室に常設されているICT機器
 - ・普通教室のLANの整備状況
 - ・学習者用端末の整備状況
 - ・デジタル教科書の導入状況
 - ・情報モラル教材の導入状況
 - ・校務用PCの整備状況
 - ・校務支援システムの整備状況
 - ・ICT支援員の配置状況
- 写真
 - ・教員のICT活用による指導場面
 - ・児童生徒のICT活用による学習場面
- 資料
 - ・学校全体の情報化の状況について
 - ・情報活用能力や情報モラル、情報機器の操作スキルに関する指導計画等

学校情報化先進校

※学校情報化優良校の認定後

学校情報化診断システム(チェックリスト)による自己評価(再)

学校情報化先進校応募基準のチェック

- 学校情報化チェックリストのすべての項目のレベルが2以上、かつ応募するカテゴリの5項目の内3項目以上がレベル3であること

エビデンスの入力、応募申請

学校情報化認定委員会委員の訪問調査

学校情報化認定委員会の審査、表彰

応募に必要なエビデンス(例)

- 過去3年間の研究指定・助成等
- 過去3年間の研究発表会等の実績
- 外部との連携・研究実績
- 校務分掌組織図
- 情報セキュリティ、個人情報等の運用指針
- 校内研修の計画
- 特色ある取り組みについての説明
- 管理職の情報化に対するマネジメントの工夫
- 先進性、発展性や効果についての説明
- 地域への普及、波及効果

学校情報化優良校には、認定証及び優良校ロゴが贈られます。

学校情報化先進校には、表彰状及び先進校ロゴが贈られます。

学校情報化先進地域には、認定証及び先進地域ロゴが贈られます。

★学校情報化認定の詳細については、日本教育工学協会(JAET)のWebを参照してください。(<http://www.jaet.jp/>)

学校情報化診断システム & 学校情報化認定

<http://check-ict.jaet.jp/>

まず、あなたの学校の情報化の状況を自己評価しましょう。
 全国平均との比較、情報化を進めるためのアドバイスなどを参照することができます。
 定期的に自己評価することで、情報化の進捗状況を把握することも可能です。
 基準を満たすと「学校情報化優良校」への申請が可能となります。

申請する前に「学校情報化優良校認定申請へのアドバイス」を必ず参照してください

<http://www.jaet.jp/katudou/nintei/youryouad.html>

学校情報化優良校への申請 (平均レベル2以上)

学校の情報化の状況を4カテゴリ20項目のチェックリストで自己評価します。

自己評価の結果は、10回まで登録可能です
 以前の状況や全登録校の平均値と比較することが可能です。

学校情報、写真、資料のカテゴリごとに必要なエビデンスを入力します。
 認定済みの優良校のエビデンスは相互に参照することができます。

学校情報化先進校への応募 (JAET全国大会での表彰へ)

学校情報化認定事業にご協賛いただいている企業

子どもたちの情報活用能力育成をサポートします

キューブきっず ver.6
キューブNext ver.5

スズキ教育ソフト株式会社
<http://www.suzukisoft.co.jp>

小学校・中学校の教育クラウドサービス

CHieru.net for School
 (チエル ネット フォー スクール)

チエル 株式会社 www.chieru.co.jp

株式会社 システム デイ

小中高 校務支援クラウドサービス

School Engine
 スクールエンジン

導入実績 1300 校
 クラウド・センターサーバー型
<http://www.schoolengine.jp/>

学校情報化診断システムは、パナソニック教育財団「平成 22 年度 先導的実践研究助成」(学校の情報化の状況を具体的に示す学校の情報化指標の開発/研究代表者:野中陽一)によって開発したものをベースに、学校情報化認定のためのシステムを組み込んだものです。

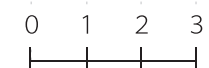
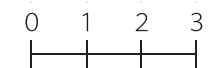
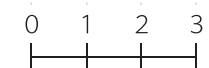
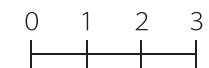
管理、運営は、学校情報化認定委員会(日本教育工学協会内)が行います。

◆ 問い合わせ先: **日本教育工学協会 学校情報化認定委員会**
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル8F
nintei@japet.or.jp

教科指導におけるICT活用



先進的・発展的な取り組みが行われている状態
 学校として充分な取り組みが行われている状態
 部分的に取り組みられている状態
 取り組みが不十分な状態



レベル0 レベル1 レベル2 レベル3

教材研究・指導の準備・評価等におけるICT活用

ほとんどの教員が、授業の準備と評価のためにICTを活用している

□□□

ほとんどの教員が、授業の準備と評価のために日常的にICTを活用している

■□□

すべての教員が、授業の準備と評価のために効果的にICTを活用している

■■□

学校全体で、さまざまな評価結果をもとに、ICTを活用した授業改善に取り組んでいる

■■■

教員のICT活用

一部の教員が、教科等の指導にICTを活用している

□□□

ほとんどの教員が、教科等の指導にICTを活用している

■□□

ほとんどの教員が、教科等の指導に日常的にICTを活用している

■■□

学校全体で、教科等の指導に日常的にICTを活用し、より効果的な活用方法について研究している

■■■

学習の定着のためのICT活用

学習内容を定着させるための個別学習、繰り返し学習等において、児童生徒のICT活用がみられる

□□□

学習内容を定着させるための個別学習、繰り返し学習等における児童生徒のICT活用が、一部の学年や教科で計画的に行われている

■□□

学習内容を定着させるための個別学習、繰り返し学習等における児童生徒のICT活用が、学校全体の指導計画に位置付けられている

■■□

学習内容を定着させるための個別学習、繰り返し学習等における児童生徒のICT活用が、学校全体の指導計画に位置付けられているとともに、家庭学習でのICT活用と連携している

■■■

ICT活用による学力向上

ICT活用が学力向上に効果があることを一部の教員が実感している

□□□

ICT活用が学力向上に効果があることをほとんどの教員が実感している

■□□

学校として、ICT活用が学力向上に効果があることをデータによって把握している

■■□

ICTを効果的に活用することによって、主体的・対話的で深い学びを実現しているエビデンスを示すことができる

■■■

普通教室における指導用ICT環境

一部の普通教室に大型提示装置が整備されているか、または学年等で共有している

□□□

すべての普通教室に大型提示装置が常設されている

■□□

すべての普通教室に大型提示装置が常設されており、実物投影装置やデジタル教科書等のコンテンツが整備されている

■■□

すべての普通教室・特別教室に大型提示装置が常設されており、実物投影装置やデジタル教科書等のコンテンツの整備に加え、ICT活用が効率的に行われるように機器の配置等が工夫されている

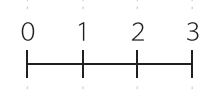
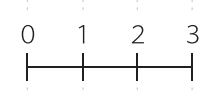
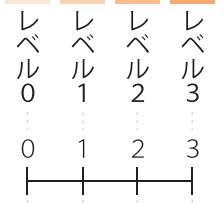
■■■

情報教育



先進的・発展的な取り組みが行われている状態
 学校として十分な取り組みが行われている状態
 部分的に取り組みがなされている状態
 取り組みが不十分な状態

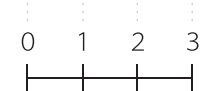
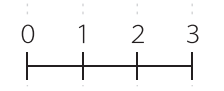
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3
ICTの基本的な操作の習得 	基本的な操作スキルを習得させるための指導はほとんど行っていない □□□	一部の教員により、基本的な操作スキルを習得させるための指導が行われている ■□□	学校全体の指導計画に位置付け、基本的な操作スキルを習得させるための指導が行われている ■■■□	学校全体の指導計画に位置付け、基本的な操作スキルを習得させるための指導の効果について評価している ■■■■
情報活用能力の育成・評価 	情報活用能力の育成を意図した学習活動はあまりみられない □□□	情報活用能力を育成する学習活動はみられるが、一部の教員による取り組みである ■□□	情報活用能力を育成する学習活動が教科等の指導計画に位置付けられ、学校全体として取り組んでいる ■■■□	情報活用能力を各教科等の学習と効果的に関連付けて育成するためのカリキュラム・マネジメントが有効に働いている。 ■■■■
プログラミング教育 クリックされた時 6回くりかえす 3歩前にすすむ 右にまがる ○○○…… ▲▲▲…… 	プログラミングに関わる学習活動はあまりみられない □□□	プログラミングに関わる学習活動はみられるが、一部の教員による取り組みである ■□□	プログラミングに関わる学習活動が教科等の指導計画に位置付けられている ■■■□	プログラミングに関わる学習活動が教科等の指導計画に位置付けられ、計画的に実施されている ■■■■
情報モラル 	児童生徒の情報モラルを指導・育成するための授業が実施されていないか、指導する内容や頻度が教員個々に任されている □□□	児童生徒の情報モラルを指導・育成するための授業が計画的に実施されている ■□□	児童生徒の情報モラルを指導・育成するための授業や啓発が、家庭、地域と連携しながら、計画的に実施されている ■■■□	情報モラルを育成するためのカリキュラムを作成し、家庭、地域と連携しながら、計画的に実施し、評価や検証を行っている ■■■■
児童生徒のICT活用環境の整備 	児童生徒がICTを活用する授業を展開する環境が、コンピュータ教室以外に整備されていない □□□	可動式コンピュータ等や無線LANの整備により、授業展開に応じて児童生徒が1グループ1台でICTを活用する環境が整備されている ■□□	可動式コンピュータ等や無線LANの整備により、授業展開に応じて児童生徒が1人1台でICTを活用する環境が整備されている ■■■□	3クラスに1クラス分程度の可動式コンピュータや無線LANの整備により、各クラスで授業展開に応じて児童生徒が1日1回程度活用する環境が整っている ■■■■



【プログラミング教育】について

■小学校
 2019年度までの認定審査(再認定を含む)に限り、レベル0も許容するものとします。ただし、web入力いただく「学校全体の情報化の状況」の「レベル1の項目への今後の対応」の中に、レベル0への対応策を必ず記入ください。

■中学校・高等学校
 中学校では「技術・家庭科(技術分野)」、高等学校では「情報科」の指導計画に位置づけられ、実施されていれば可とします。

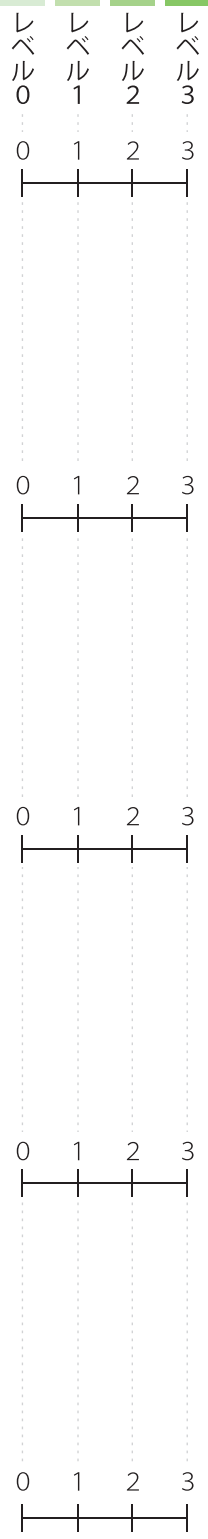


校務の情報化



先進的・発展的な取り組みが行われている状態
学校として十分な取り組みが行われている状態
部分的に組み込まれている状態
取り組みが不十分な状態

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3
校務用PCと校務支援システムの整備・運用 	教員1人1台の校務用PC、セキュリティソフトが整備され、運用されている □□□	教員1人1台の校務用PC、セキュリティソフト、校務支援システム等が整備され、運用されている ■□□	教員1人1台の校務用PC、セキュリティソフト、校務用ネットワーク、統合型校務支援システムが整備され、運用されている ■■■□	教員1人1台の校務用PC、セキュリティソフト、校務用ネットワーク、安全性が確保されたクラウド型の統合型校務支援システムが整備され、効果的に運用されている ■■■■
業務改善・効率化 	校務の情報化によって、校務が効率化されたが、負担軽減にはつながっていない □□□	校務の情報化によって、校務が効率化され、負担軽減につながっている ■□□	校務の情報化によって、校務全般が効率化され、負担軽減がなされている ■■■□	校務の情報化によって、校務全般が効率化され、負担軽減がなされている。さらに、評価情報の共有・活用により、授業改善、業務改善につながっている ■■■■
学校ウェブサイト 	学校ウェブサイトを開設しているが、更新の頻度は少ない □□□	学校ウェブサイトを開設しており、定期的に更新している ■□□	学校ウェブサイトを開設しており、行事や学習活動の様子等を保護者や地域に対して、日常的に公開している ■■■□	学校ウェブサイト上で学校評価等を保護者や地域へ情報公開し、説明責任を果たしている ■■■■
保健・図書・一般事務等の情報化 	保健・図書・一般事務等で扱うデータや文書等のデジタル化はほとんどなされていない □□□	保健・図書・一般事務等で扱うデータや文書等の多くをデジタル化している ■□□	保健・図書・一般事務等で扱うデータや文書等のほとんどはデジタル化され共有されており、一部はデータベース化されている ■■■□	保健・図書・一般事務等で扱うデータや文書等がデータベース化されて、担当者間の効率的な連携やペーパーレス化などが進められている ■■■■
情報化に関する規則の遵守 	校務の情報化に関わる情報セキュリティや個人情報、著作権等の取り扱いなどの指針を定めている □□□	校務の情報化に関わる情報セキュリティや個人情報、著作権等の取り扱いなどの指針の周知徹底が進められている ■□□	校務の情報化に関わる情報セキュリティや個人情報、著作権等の取り扱いなどの指針に従って、適切に運用・推進されている ■■■□	校務の情報化に関わる情報セキュリティや個人情報、著作権等の取り扱いなどの指針が徹底され、遵守されているか点検している ■■■■



情報化の推進体制



先立的・発展的な取り組みが行われている状態
学校として十分な取り組みが行われている状態
部分的に組み込まれている状態
取り組みが不十分な状態

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3
管理職のリーダーシップと学校の情報化のビジョン 	学校の全体計画に情報化が位置付けられており、管理職の役割が明確になっている □□□	学校の全体計画に情報化が位置付けられており、管理職のリーダーシップが発揮されている ■□□	学校の全体計画に情報化が位置付けられており、管理職を含むリーダーシップチームにより推進されている ■■■□	学校の全体計画に情報化が位置付けられており、管理職を含むリーダーシップチームにより、持続的・計画的な教育の情報化が推進されている ■■■■
情報化担当教員 	情報化担当教員（情報主任等）が学校の情報化の普及に努めている □□□	情報化担当教員（情報主任等）が管理職と連携して、学校の情報化の普及に寄与している ■□□	情報化担当教員（情報主任等）が管理職と連携して、学校全体の情報化の普及・定着のために貢献している ■■■□	情報化担当教員（情報主任等）が中心となって、教科横断的なカリキュラム・マネジメントを行い、学校全体の情報化を持続的・計画的に推進している ■■■■
情報化推進組織・校務分掌 	情報化を推進する組織が校務分掌に位置付けられている □□□	情報化を推進する組織が校務分掌に位置付けられ、学校全体の普及・定着に寄与している ■□□	管理職、情報化担当教員（情報主任等）、情報化を推進する組織が一体となって、学校全体の情報化の普及・定着のために貢献している ■■■□	情報化を推進する組織が機能し、学校全体の情報化による教育改善が実現している ■■■■
教員のICT活用指導力とその向上のための校内研修 	校内研修は行われているが、教員のICT活用指導力の向上は限定的である □□□	日常的な情報交換に加え、ICT活用指導力向上のための校内研修が計画的に行われている ■□□	校内研修が計画的に行われており、ほとんどすべての教員がICT活用指導力を身に付けている ■■■□	より高いICT活用指導力を身に付けるために、校内研修が工夫され、ICTを活用した授業研究が計画的に実施されている ■■■■
外部との連携、外部人材の活用 	情報化の推進のために教育委員会を含む外部から何らかの支援を受けている □□□	情報化の推進のために教育委員会を含む外部からの支援を受けたり、外部人材の活用を行ったりしている ■□□	情報化の推進のために大学や企業等外部からの支援を受けたり、ICT支援員の配置や外部人材の活用を行ったりしている ■■■□	研究指定・助成や大学・企業等との連携等、情報化の推進のための外部支援を受けたり、ICT支援員の配置や外部人材の活用継続的に取り組んでいる ■■■■

